

ZONE A 21世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う - 協働を編み込み、実践をデザインし、文化を生み出す -

主旨

これまで Zone A では、「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」というテーマのもと、学校が持続発展していくための教師協働の在り方について議論を積み重ねてきました。今回の実践研究福井ラウンドテーブル 2019 Spring Sessions では、「専門職の学び合うコミュニティ (Professional Learning Communities)」のビジョンにもとづき、「21 世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う」という新しくもあり核心的なテーマを打ち立て、学校が「専門職ネットワーク」と「学校ネットワーク」を編み込みながら、学び合う文化の生成と成熟を進めるための道しるべを参加者のみなさまと協働探究していきます。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア (ポスターセッション)
福井県内外の幼・小・中・高・特別支援学校

Session II
(14:20-15:50)

シンポジウム
21 世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う

シンポジスト	福井大学附属義務教育学校・副校長	牧田 秀昭 氏
	埼玉県立豊岡高校・教諭	金子 奨 氏
	東京大学大学院教育学研究科・教授	秋田 喜代美 氏
モデレーター	福井大学連合教職大学院・准教授	木村 優 氏

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
協働を編み込み、実践をデザインし、文化を生み出す

Session II の議論に基づき、参加者それぞれの学校づくりの長い実践を共有し、新たな出会いと協働を編み込んでいきます。

ZONE B1 これからの地方国立大学の教員養成が進むべき方向性を問う - 教師になりたい人が育つ世代継承生成サイクルを創る -

大学入試の地域枠と高大接続／地域に密着した教育実習／5年制教員養成の構築／教員研修とリンクした教職大学院の教育課程／管理職希望者の全てが入学できる教職大学院。こうした教師の生涯発達課題を実現すべく地域社会と教職大学院が動き出した。

主旨

教育の振興なくして地方創生はありえない。地方が秘めている教育振興の仕組みこそ、知識基盤社会に立ち向かわなければならない日本が、世界に向けて発信できるかけがえのない世界戦略である。近年、日本型学校教育が注目されるが、その根底には地域と一体となって教師を育てる仕組みが息づいている。私たちは風化しつつある地域の教師教育の仕組みを活性化し、そこに秘められた子どもたちのAgenciesを育む教師の有様、さらには、子どもと教師のInter-agencyを育む仕組みを顕在化させなければならない。

これらの課題を実現するには、何が必要なのか。教職大学院の現場、国の教育行政、地域社会の各立場から建設的な意見交換を実現する。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
全国教職大学院、教員研修センター、教育委員会ほか

シンポジウム

これからの地方国立大学の教員養成が進むべき方向性を問う

Session II
(14:20-15:50)

シンポジスト 岡山大学大学院教育学研究科長 三村 香里 氏
文部科学省総括教育政策局人材政策課長 柳澤 好治 氏
福井県教育庁教育政策課長 片柳 成彬 氏
敦賀市教育長 上野 弘 氏
情報提供 福井大学連合教職大学院研究科長 松木 健一 氏

コーディネーター

福井大学連合教職大学院院客員教授
(慶応大学・東京大学教授) 鈴木 寛 氏

フォーラム

教師になりたい人が育つ世代継承生成サイクルを創る

Session II シンポジウムでの議論を受けて、参会者の皆様とともに協働チームで問いと議論を深めていきます。

Session III
(16:00-17:40)

話題提供
文部科学省総括教育政策局人材政策課教員養成企画室教職大学院係 東 尚平氏 文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室教育大学係 山中啓資氏
大阪体育大学准教授 岸田 正幸 氏 福井県教育研究所所長 牧野 行治 氏
若狭町教育長 玉井喜廣氏
福井県立若狭高等学校進路指導主事 澤村 文明 氏
福井県立敦賀高等学校進路指導主事 高橋 克弘 氏

ZONE B2 学部-大学院を通じたこれからの教員養成を考える - 実践を聴き、夢を語る -

主旨

これまで Zone B2では、大学教員が自らの授業実践を語り合い、聴き合うことを通じ、これからの時代に求められる教員養成のあり方を模索してきました。その中で、学校現場等を活動の場とした多様な実践的活動の有り様とその成果、課題等が浮かび上がってきました。昨今、教員志望の学生に対する継続的な現場体験の充実・拡大が求められています。また、学校現場における実践的活動は、教職大学院と修士課程の一元化における重要な柱の1つであるともいえます。しかし、継続的な現場体験の実現と継承・発展を支えることには様々な困難が伴います。そこで、今回のラウンドテーブルでは、学校ボランティア、サービス・ラーニング、体験実習等の実践的な取り組みに焦点を当て、教員養成における体験的活動をいかに実現し、継承・発展させていくのかについて、互いの実践を交流し合いながら、参加者のみなさまと探究を深めていきたいと思えます。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア (ポスターセッション)
教員養成大学 他

Session II
(14:20-15:50)

シンポジウム
学部-大学院を通じたこれからの教員養成を考える

「教員養成・研修統合型のシステム構築の展望と課題～大学の役割から考える～」
静岡大学 梅澤 収 氏

「教育問題に対応する実践的な力の育成を目指した『1000 時間体験学修』」
島根大学教育学部 下村 岳人 氏

コーディネーター

福井大学連合教職大学院 遠藤 貴広 氏

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
実践を聴き、夢を語る

梅澤 収 氏 (静岡大学)
大畑 健二 (信州大学教育学部附属長野小学校)
小田切 亮 氏 (信州大学教育学部附属長野小学校)
小野瀬 善行 氏 (宇都宮大学)
竹内 克紘 氏 (信州大学教育学部附属長野小学校)
下村 岳人 氏 (島根大学)
白井 敬 氏 (信州大学教育学部附属長野小学校)
田宮 縁 氏 (静岡大学)
長谷川 哲也 氏 (静岡大学)
肥田 武 氏 (一宮研伸大学)
三品陽平氏 (愛知県立芸術大学)
福井大学

小グループ形式での実践交流を行いません。

ZONE C 持続可能なコミュニティをコーディネートする - 地域・学校のつながりを編み直す -

主旨

これまで Zone C では、「持続可能なコミュニティをコーディネートする」という大きなテーマのもと、そうした展開を支える広報や記録、コミュニティを支える実践者の力量形成といったサブテーマで多角的に検討してきました。今回は、地域のコミュニティにおける学校にも焦点を当て、「地域とともにある学校」についても考えていきたいと思っております。少子化や情報化といった社会の変化のなかで、これまでの地域コミュニティの在り方にも変容が生じており、改めて今「社会に開かれた教育課程」の実現のために「学校と地域の連携」が教育改革における議論でも重要課題になっています。持続可能な地域コミュニティを醸成するために、地域や学校における実践者の方がどのようにそのつながりを編み直しているのか、それぞれの立場からの実践報告を共有するなかで一緒に考えていきたいと思っております。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井市及び勝山市の公民館・福井大学探求ネットワーク・たかとの郷づくり協議会等

Session II
(14:20-15:50)

シンポジウム
地域・学校のつながりを編み直す

シンポジスト	福井市一乗谷公民館・主事	松田 芳味 氏
	坂井市立丸岡南中学校・教諭	奥村 弘美 氏
コーディネーター	福井市生涯学習室	岩佐 誠 氏
	福井大学連合教職大学院	半原 芳子 氏

Session III
(16:00-17:40)

フォーラム
地域における多様な実践から学び合う

Session II シンポジウムでの話題提供を受けて、小グループでの実践交流を行います。

ZONE D 子どもと教師の学びを支えるために 授業研究・保育研究をいかに組織するか

主旨

これまで ZoneD では、「子どもと教師の学びを支えるために保育研究・授業研究をいかに組織するか」というテーマで、特に探究的な学習を支えるためにどのように保育研究・授業研究を組織していくといいのか、考えてきました。

今回は、このテーマを掘り下げて考えていく視点として、「授業研究の文化をいかに創っていくか」に焦点を当てます。保育研究・授業研究は、ともすると公開保育や公開授業に向けて、準備を厚く重ね、それが終わると研究も終了という、いわば打ち上げ花火のような形式的な授業研究になってしまう危険があるものです。真に子どもたちの探究を深めていくには、1 サイクルの保育研究・授業研究ではなく、教師たちが持続的に協働で探究していく保育研究・授業研究の文化が不可欠です。そのためには、どのように研究のリズムを作り、どのように教師の協働探究を組織し、どのように基盤となる実践記録を編成していくとよいのでしょうか。

シンポジウムでは、こうした授業研究の文化を創ってきた小・中学校の実践報告に加え、アフリカ・マラウイ国において新たに授業研究の文化を創ろうとしている取組について実践報告をいただきます。

シンポジウムで出てきた問題提起を踏まえて、フォーラムでは、保幼小・中高・特別支援という3領域に分かれ、参加者がそれぞれの校種や領域で具体的に実践を捉え直していきます。その手がかりとなるよう、校種ごとに話題提供をしていただきます。授業研究の文化を創っていく上では、学習のありかたについて転換を図ることが必要であり、文化を築くまでには時間のかかるものでもあります。そうした苦労も含めて、参加者同士で率直に語り合い、展望を探っていければと思います。

Session I
(13:10-14:10)

ナレッジ・フェア（ポスターセッション）
福井県内外の幼・小・中・高・特別支援学校

シンポジウム

子どもと教師の学びを支えるために授業研究・保育研究をいかに組織するか

Session II
(14:20-15:50)

シンポジスト マラウイ教育科学技術省教員教育開発局 アルフレッド・カモド 氏
福井市森田小学校・教諭 板垣 英一 氏
信州大学教育学部附属松本中学校・副校長 宮下 哲 氏
コーディネーター 福井大学連合教職大学院・講師 高阪 将人 氏

フォーラム

多様な授業研究・保育研究から学び合う

Session III
(16:00-17:40)

A 保幼小の実践に学び合う

信州大学教育学部附属松本小学校
福井県高浜町立保育所実践研究グループぴっか

B 中高の実践に学び合う

カリタス女子中学高等学校
福井市社中学校

C 特別支援教育の実践に学び合う

福井南高等学校